

# 新一般廃棄物最終処分場建設の進捗状況 及び環境影響評価調査について

# 1 整備施設概要

- (1) 整備予定地：三条市桑切、中野原地内ほか
- (2) 施設種別：クローズドシステム最終処分場
- (3) 浸出水処理方式：無放流方式（循環型方式）
- (4) 施設規模等
  - ア 敷地面積 約50,000m<sup>2</sup>
  - イ 埋立容量 約100,000m<sup>3</sup>（約33,000m<sup>3</sup>×3期分）
  - ウ 埋立期間 45年間（15年間×3期分）
  - エ 埋立対象物 飛灰処理物、その他溶融不適物



クローズドシステム最終処分場イメージ

# 2 スケジュール

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
基本設計	■					供用開始
環境影響評価調査※		■				
実施設計		■				
用地取得		準備	買収			
建設工事				準備	■	

※当該施設の建設に当たり、周辺的生活環境に及ぼす影響について、周辺地域的生活環境の現況を把握するとともに、施設設置に伴う影響を予測し、適切な環境保全対策等を検討するために実施するもの（調査項目：大気質、騒音・振動、悪臭、地下水）

### 3 新最終処分場の必要性

#### 道心坂最終処分場の現状について



今後、2.5mの嵩上げを行ったとしても、平成32年度までに埋立が終了する。

**新たな最終処分場に向けた取組が必要**

## 4 これまでの最終処分場

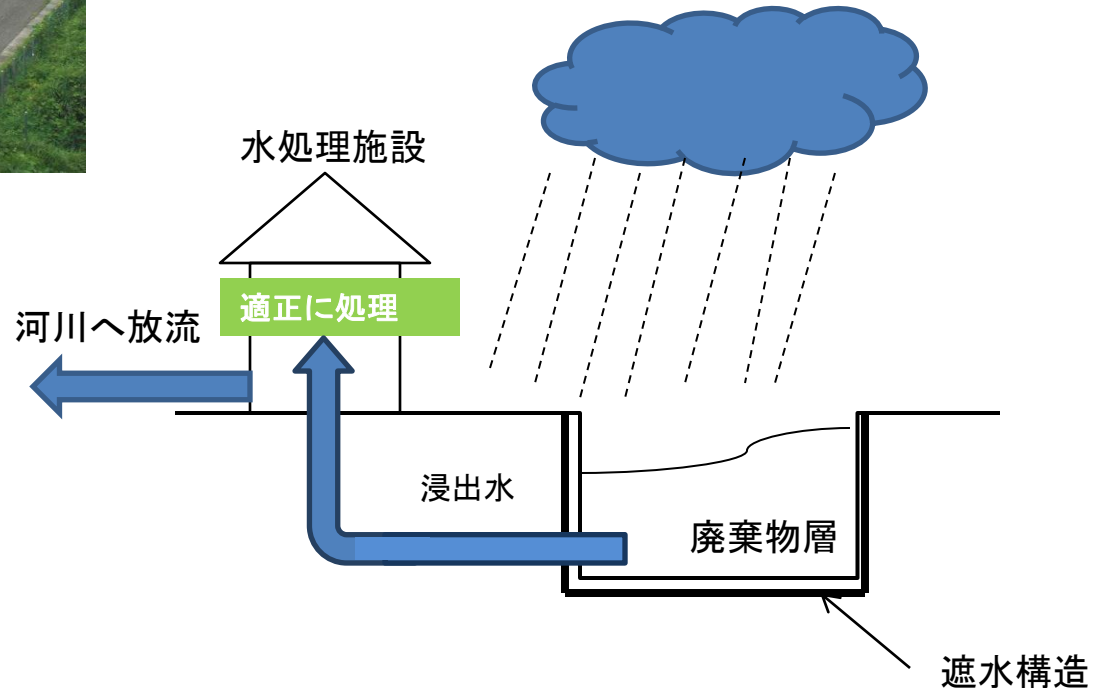


### ほとんどがオープン型処分場

オープン型と呼ばれる最終処分場は、地面に深さ5～10mの穴を掘り、地形や形状等に応じて、穴の底及び側壁をコンクリートで固めたり、遮水シートを敷き詰めたりする。埋立区域に降った雨は、水処理施設で排水基準をクリアする処理をした後、河川に放流する。

#### 【オープン型の特徴】

- ① 大規模処分場に適している。
- ② 施工については、比較的簡易である。
- ③ 雪や雨の影響を受けやすい。
- ④ 水処理量が多くなるため、水処理施設が大きくなる。



## 5 新最終処分場の処理方式

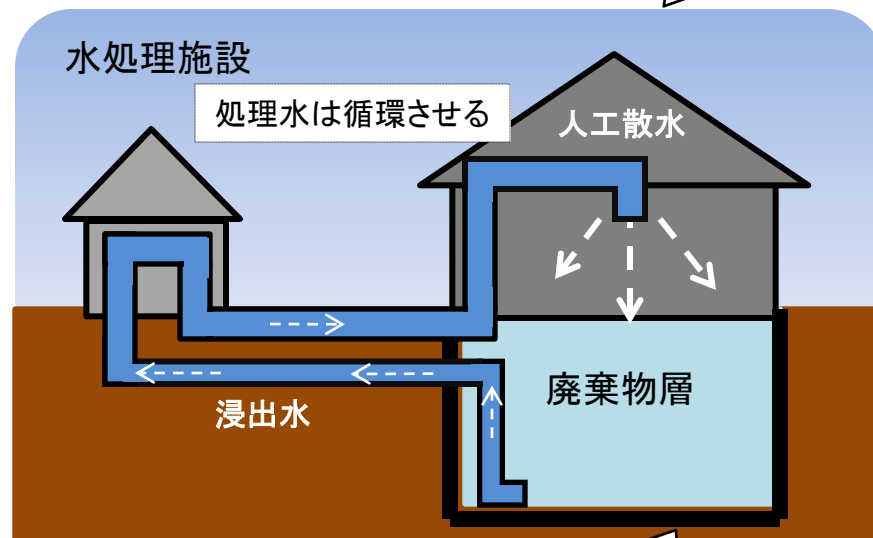
### クローズド型処分場

クローズド型と呼ばれる最終処分場は、地面に深さ5～10mの穴を掘り、穴の底及び側壁をコンクリートで固め、更に遮水シートを敷き詰める。埋立場所に屋根をかぶせることにより、天候に左右されない埋立処分が可能で、維持管理もしやすい。

#### 【クローズド型の特徴】

- ① 屋根があることで、雪や雨を完全に遮断するとともに、外部の生活環境へ影響を与えない。
- ② 廃棄物の安定化のために適量の散水を行うが、雨水の浸透がないため水処理量が少なくて済む。
- ③ 水処理後の処理水を放流せずに循環する構造となっており、場外へ放流することはない。
- ④ オープン型と比較して、水処理施設等の建設費が少なくて済むことから建設費は同程度であり、維持管理費は少なくて済む。

埋立地を建物で覆うことにより、雨や風をシャットアウトし、廃棄物の飛散、臭気の拡散などを防止する。

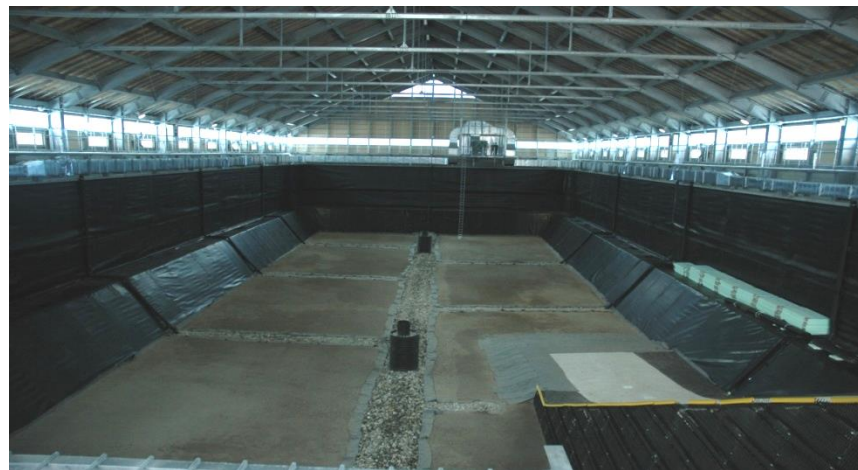


【危機管理対策】不測の事態への対応として、遮水機能を確保するための対策(漏水探知システム等)を講ずる。

◆クローズド型処分場は、30道県の63箇所では供用及び建設中



**長岡市柵尾最終処分場**



供用開始：平成17年3月

**山口県周防大島町  
最終処分場**

供用開始：平成19年12月

